

島根・富田城跡とだ（菅谷地区）

- 1 所在地 島根県能義郡広瀬町富田
- 2 調査期間 一九八二年（昭57）三月
- 3 発掘機関 島根県教育委員会
- 4 調査担当者 島谷芳雄
- 5 遺跡の種類 城館跡・集落跡
- 6 遺跡の年代 室町時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（松江）

富田城跡は、飯梨川の東岸、標高一八四mの月山を中心とした山城跡で、国指定の史跡である。周辺には富田城に関連した中・近世の遺跡が数多く残されており、島根県教育委員会ではこれら遺跡群の総合整備計画を策定する目的で、昭和五十四年度から四十年をかけて周辺地区の発掘調査を実施した。菅谷地区は五十六年度の調査区である。同地区は月山の北側に位置し、新

宮谷入口から南側に伸びる小さな谷であるが、月山中腹の山中御殿平へ通じる入口の一つとして富田城の防禦上重要なところとされている。発掘調査の範囲はごく一部に限られたが、屋敷跡とみられる石列遺構（時期不明）が検出された。木簡は、谷の入口部分より出土した。



8 木簡の积文・内容

(1) 「惣右衛門納」

196×31×5.5 051

当木簡には年紀が記されており、使用年代を明確にしたいが、書体などからすると、近世（江戸時代前半か）のものとみられる。木簡が出土した附近はもと城安寺のあったところとされるから、あるいはこれに関係したものかとも思われる。

9 関係文献

島根県教育委員会『史跡富田城関連遺跡群発掘調査報告書』（一九八三年）

（島谷芳雄）